

新潟市

第30号

11

月 2016

# 北区農業委員会だより

Kita Ward Agricultural Commission Public Information



## 水稻作柄状況調査を実施



8月31日に農業委員・農地利用最適化推進委員で北区の水稲作柄状況調査を実施しました。

県農業普及指導センター作物担当の山田技術専門員を招いて、直播栽培、新晩生新品種「新之助」栽培、自然栽培、減・減栽培など、今年度の作柄を栽培方法の異なるほ場で調査を行いました。

## 農業委員 レポート



農業委員  
窪田 昇平  
(木崎)

### 葉タバコを廃作して「6次産業化への取り組みへ」

11月に入り、今年も早いもので2ヶ月足らず。稲の収穫作業も終わり、ひと段落していると思います。

農業に従事する人たちが年々減少し、高齢化しているなど、昨今の農業情勢は、相変わらず厳しいです。

この先、この美しい田園風景や、緑豊かな野菜畑を維持していくことができなくなるのではと憂えるところがあります。

そんな中、58年間耕作してきた葉タバコ栽培を廃作。葉タバコに代わる収益物を模索する中、たまたま妻が作るぎょうざの評判が良く、「6次産業化」として自家生産野菜を中心とした手作り冷凍ぎょうざの製造・販売を始めました。



加工所は、以前葉タバコの貯蔵場だった所を改装し、食品加工の免許も取得しました。

自家生産野菜のキャベツ・白菜・ニラ・ニンニクはすべてぎょうざの具として使っています。

特にキャベツは年中切らさないように、年6回くらい種子を蒔き、7反程作付けしています。いつしか私は、「キャベツ農家」になっていました。ぎょうざ作りは妻が中心で、皮は1

枚ずつ手作りのため1日に700個が限度です。

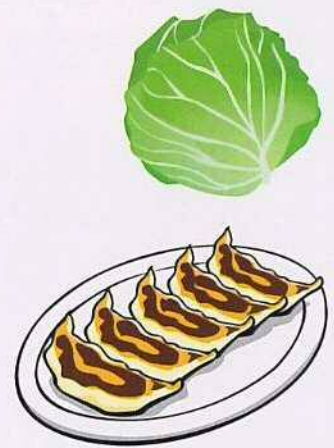
立ち上げて4年ですが、いろいろな苦労がありました。

当初、大手の直売所をあてにしていたところ、冷凍庫を置かないということとで断られたり、販売先が倒産するなど販売の難しさを痛感しました。

現在は、直売所2店と自分の加工所で販売しています。

年々リピーターも増えていきますし、「美味しい」と言われた時は、やってよかったと思います。

「6次産業化」ということで、手間と時間はかかりますが、原材料として使用する野菜生産に力を入れてこれからもっと美味しく安全で質の高い商品にこだわって、皆さんに喜ばれることを目標に、妻と頑張っていくたいと思います。



# 農地利用最適化推進委員レポート

## 農地パトロールの実施



無断転用耕作放棄地に歯止めを

7月8日～29日の間に、農地パトロールを実施。

農業委員及び、農地利用最適化推進委員、耕作放棄地解消プロジェクトチームで北区の農地を7地区に分けて現況確認を行いました。

この調査に基づき所有者への管理指導が行われます。

耕作放棄が進むと、病害虫の温床、有害鳥獣のすみ家や不法投棄の場となる恐れが大きくなり、近隣農家に迷惑がかかってしまいます。

耕作放棄をせず適正な管理で良い農地を守っていきましょう。

## 農地利用最適化

### 推進委員として



農地利用最適化推進委員  
松田 勝己  
(南浜)

平成28年4月1日改正農業委員会法が施行され、農地利用最適化（担い手への農地集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進）の推進に取り組むために、農地利用最適化推進委員制度が新たに設けられました。

私は今年3月までJA推薦の農業委員として1期務めました。正直分からないうちに3年が過ぎたように思います。JAに36年勤務していたことで、多少なりとも、地域の現況を把握していると思っていたので、少しでも耕作放棄地、遊休農地の解消に役立ちたいと思い推薦を受け就任しました。

南浜地区で5年位前まで、葉タバコが50ha栽培されていました。その頃はあまり遊休農地は目立ちませんでした。ところが、JT（日本たばこ産業）の葉タバコの減産により大部分の農家が廃作し、借入地を地主に返しました。その結果、遊休農地が目立つて増えてしまいました。

現在の畑作栽培体系は従来の露地作物を大規模に作るのではなく、市場と話し合って、時期をずらしても売れる品目を個々の労力に合わせて作付けしているので、遊休農地の活用が進みません。

遊休農地を減少させるには、法人や新規参入者に活用してもらおうことも大事なのではないかと思えます。

また、農業者の将来的な意向を知るための情報収集として、積極的に地域の寄り合いやJAの会議に参加し、農地集積に役立てたいと思います。

それと誰でもが気軽に相談をしてみようかと思えるような雰囲気をもつていきたい。

推進委員となって半年が過ぎまし

たが、唯一貸借りの仲介を行ったNSGグループの新規農業法人が遊休農地になりそうな農地2haの借入れを行いました。

また、販売が好況なシルクスイート（サツマイモ）の団地化を将来進めたいとの相談も受けています。

耕作放棄地や遊休農地の解消は一朝一夕に解決されるものではないので、歩みは遅くとも、一歩ずつ地域とともに取り組んでいきたいと思っています。



永年勤続農業委員に  
表彰状



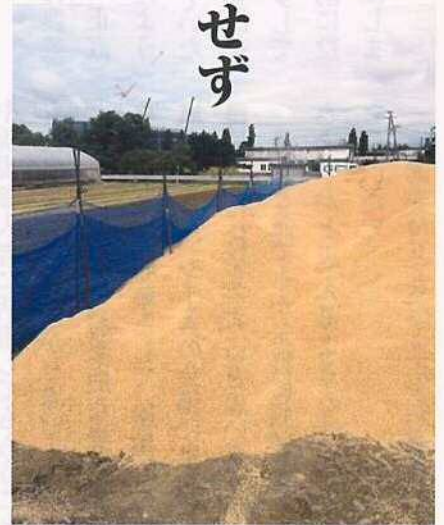
倉島 繁さん      本田敏明さん      田村良雄さん

8月24日に新潟県農業会議の石山会長から、島倉繁さん、田村良雄さん、本田敏明さん（いずれも継続勤務3期）の3名の農業委員が表彰されました。

3名の方は長年にわたり農業委員として、地域農業の発展に尽くされ、農業者の地位向上に努力された功績が認められたものです。

これからも、地域農業者のリーダーとして益々のご活躍を祈念いたします。

捨てれば「ゴミ」  
生かせば「資源」  
もみ殻は焼却処分せず  
有機資材として  
利用しましょう



■もみ殻の有効利用

精米過程で副産されるもみ殻は、伝統的には、くん炭に加工されて畑などに投入され、土壌改良剤として重宝されています。しかし、くん炭加工するには手間がかかる上に、安価な土壌改良剤が市販されると「ゴミ」として処分されるが多くなっています。

もみ殻は、稲作農家であれば無料の資源です。

■もみ殻マルチングに

もみ殻をマルチングの有機材として再利用する方法があります。ビニールマルチングは水分の蒸発を完全に防いでしまうのに対して、もみ殻の場合はすきまを通じて、土中の水分が過剰なら、もみ殻の隙間から蒸発し、土壌の乾燥や加湿を防いでくれます。

もみ殻には、空気層ができてやすいため断熱効果、防寒効果にすぐれ、もみ殻の厚さを調整することで季節に応じた日光の遮断・過度の地中温の上昇を防ぐ効果的な働きを持ち、雑草の発生を抑えてくれる効果もあります。

もみ殻の表面には凹凸が多いことから泥はねの抑制になり、果菜類や葉菜類など、泥はねに起因する病気に弱い作物に効果的です。表面に追肥した有機肥料の効果の安定や肥料流亡の防止にもなります。

もみ殻は自然に分解するため使用後の回収の必要がありません。

■土壌改良に

使用後には土にすき込むことで、稲わらほど分解速度は早くなく、長期間もみ殻が残留し、水はけの悪い土壌なら土

壌改良の効果がありますし、もみ殻の分解過程で微生物などが増殖してその結果土壌の表面が柔らかくなり、土壌の改良にも二役買ってくれます。

■もみ殻たい肥に

もみ殻たい肥を使用している農家を訪問し、もみ殻堆肥について伺いました。もみ殻は、一年間野積みを行い2年目に米ぬかともみ殻をかくはんし、市販のバイオ菌を少し混ぜるそうです。約1週間のサイクルで3回程かくはんし発酵熱がなくなつてから使用しているそうです。

もみ殻たい肥を主に露地畑とビニールハウスに使用しているとお話でした。もみ殻堆肥を使用するようになつて10数年になるそうです。もみ殻堆肥を使用するようになつてからは化学肥料の使用が少なくなり、ハウスに使用すると連作障害が少なくなつているとのお話を伺いました。

もみ殻は、わら堆肥から比べると軽いため作業が楽で土と混ぜやすいということでした。

■その他の利用例

田への環元、暗渠資材、ペレット、もみ殻舗装などがありますが、今後もある有効活用が望まれます。

# 専業農家の紹介



小熊 正 章さん(49歳)

真紀子さん(42歳)

(新鼻)

☺農閑期の休みにラーメン屋さん  
巡りするのが楽しみです。  
☺休日に娘とショッピングに行く  
のが楽しみです。

## 稲作専業農家になって

はじめは、兼業農家として土日の休日に稲作を行っていました。妻が嫁いで来たときは、今ほど耕作面積はありませんでしたが、人に委託されるようになり、現在は12haの田んぼで稲作一筋で

農業に従事しています。

耕作面積が多いので、春の田植えの期間は、兄弟親せき等から手伝ってもらい、ゴールデンウィークに田植えを行っています。稲刈りは一人で作業を行っています。妻は平日勤めに出ているので休みの日は手伝ってくれます。息子も自分の休みに合わせて時々作業を手伝ってくれます。

今は、1年間手間をかけたお米が良く出来て、消費者に喜んでもらえる時間が何よりも「一番うれしい時です」。

稲作専業農家になって13年、軌道に乗るまでの数年は大変苦勞しました。

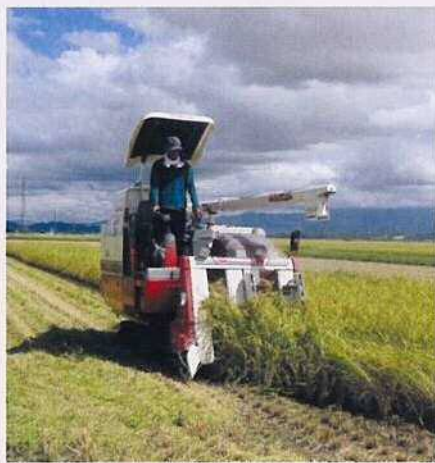
## 大変だ、辛いなと思う時は

初めて委託耕作を受ける田んぼの初年は大変苦勞します。

その田んぼの特徴をつかむまでが大変です。地力のある田んぼなのか、排水はどうか、地盤はどうか、多方面で神経を使います。ですから、現場はとにかく足を運んで、現場状況や生育状況をよく観察しています。

地盤が悪ければ、親せきや兄弟の男手を借りて、ぬかるほ場には土のうを入れたり残土を入れるなどしながら地盤改良を行っています。

刈取り時期の台風が怖いですね。台風が接近してくると、何度も夜起きると、スマホで状況を確認していますので、つい睡眠不足になってしまいます。



## 将来について

稲作専業農家なので、まだまだ耕作面積を増やして頑張る稲作をしたい。

息子は現在、別な仕事をしているので、今後就農するかは息子任せですが、あとを継いでもらいたいのが「本心」です。

そのためには、米作りがもっと魅力があるものだと、俺が頑張らなければと思っています。

妻も息子と一緒に農業ができればよいと、将来に期待しています。

## 取材を終えて

奥さんは非農家から嫁がれて22年、農家のお嫁さんになるのに抵抗はなかったかと尋ねると、祖母の家が農家だったので抵抗はなかったそうです。

伺った時は稲刈り作業の手伝い中で、コンバインで刈取りができない場所などを手際よく鎌で刈っていました。旦那さんと「あうん」の呼吸で稲刈り作業をされていました。

お二人ともとても「こやかで、明るく素敵なご夫婦でした」。

佐渡市農業委員会が  
視察来庁



7月7日に佐渡市農業委員会  
が視察に来庁し、遊休農地解消の  
取り組みとして、地場産業の振興  
につなげたシルクスイート(サツマ  
イモ)の作付けなどについて意見  
交換を行いました。

表紙の写真

トルコキキョウ

20代の頃から花の切花栽培を始めて  
14〜15年くらいになります。

現在は5棟のビニールハウス栽培と3カ  
所で露地の切花栽培を行っています。

切花組合に加入してから本格的に裁  
培をするようになり、諸先輩方の指導を  
受けてここまでになりました。

特に夏場の管理に非常に苦労していま  
す。日差しが強いと色が抜けてしまい花  
弁が焼けてしまうので大変です。そう  
なると出荷は出来ません。

花の枝は4本、花は4個、つぼみは2〜  
3個を一株として販売品用に仕立ててい  
ます。

倉島 貞臣さん(大瀬柳)

▼お話を伺っていると、ほとんどが手作業  
で、なかなか機械作業ができず、重労働で  
あることに驚きました。これからも、きれ  
いな花をたくさん栽培してください。



全国農業新聞を  
購読してみませんか

農業者の「経営と暮らしに役立つ」  
ホットな情報をお届けいたします。

地方面では、皆さんの地域の身近  
な情報が満載です。

- 発行日 毎週金曜日、月4回発行
- 購読料 700円/月額  
(送料・税込額)
- 申込先 北区農業委員会事務局  
☎387-1585へ

農地を農地以外にする場合、  
農地法による農地転用の手続きが必要です。

転用についての手続きや疑問は、農業委員会にご相談ください。

- ◆農地を農地以外することを「農地転用」といいます。
- ◆農地を転用する場合には、農地法の許可が必要です。

市街化区域以外の農地を住宅や工場など建物の敷地、資材置場、駐車場  
など農地以外に転用する場合や一時的な資材置場や仮設の現地事務所等  
にする場合にも転用の許可が必要です。

◆転用の許可方法は2種類あります

- 1 農地の所有者自らがその農地を転用する場合(農地法第4条)
- 2 農地の所有者から農地を買う又は借りて転用する場合(農地法第5条)

総会開催日

11月30日(水)、12月27日(火)、1月31日(火)、2月28日(火)  
\*傍聴者の定員は5名

農地の賃借・売買等の締め切り日

- 農地法第3条・4条・5条関係  
11月9日(水)、12月9日(金)、1月11日(水)、2月8日(水)、3月9日(木)  
\*毎月受付、各月10日頃が締め切り日です。
- 農業経営基盤強化促進法関係  
11月25日(金)、12月22日(水)、1月25日(水)、2月20日(月)、3月17日(木)  
\*利用権設定ほか売買・交換の受付は8月から3月まで。  
各月25日頃が締め切り日です。

◆編集後記◆

八月下旬には台風10号が発生し、  
当初の予報では、新潟県直撃でした  
が、観測史上初の東北地方の太平洋  
側に上陸し、岩手県・北海道の一部が  
甚大な被害に見舞われました。  
幸いにも新潟県内は直撃から免  
れ、水稲早生種は豊作となりました。  
た。日頃からの土作りの成果だと  
思っています。

今月号の特集は「もみ殻」の有効  
利用について掲載しました。参考に  
していただければ幸いです。

(編集委員 小林 浩)